

# DIAM 米国リート・インカムプラス

## 追加型投信／海外／不動産投信

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、円建て外国投資信託への投資を通じて、米国のリートとオプション取引を実質的な取引対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。

ここに、運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年7月13日～2019年12月3日

第82期	決算日：2019年8月13日	
第83期	決算日：2019年9月12日	
第84期	決算日：2019年10月15日	
第85期	決算日：2019年11月12日	
第86期	償還日：2019年12月3日	
償還日 (2019年12月3日)	償還価額	3,477.79円
	純資産総額	1,373百万円
第82期～ 第86期	騰落率	1.1%
	分配金合計	135円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。  
(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

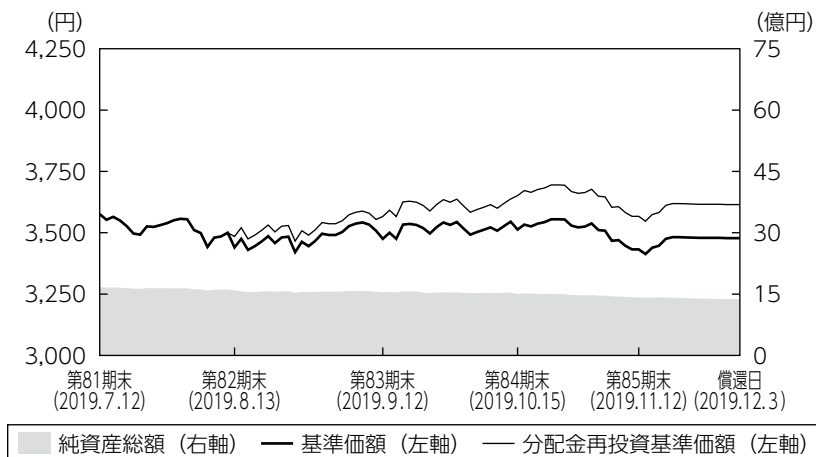
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第82期首： 3,576円  
 償還日： 3,477.79円  
 (既払分配金135円)  
 騰落率： 1.1%  
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

米国リート市場が上昇したことや、為替市場で円安が進行したこと等がプラス寄与となり、基準価額は上昇しました。

また、当ファンドは設定来で54.5%上昇しました（分配金再投資ベース、設定来の分配金10,040円）。米国リート市場の上昇、および為替市場の円安がプラス要因となり、基準価額は上昇基調で推移しました。

### ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイアム US リート カバードコール ストラテジー ファンド	1.8%
D I A Mマネーマザーファンド	△0.0%

- (注1) ダイアム US リート カバードコール ストラテジー ファンドの騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。
- (注2) 組入ファンドの騰落率は、当ファンドが保有していた期間（2019年11月22日まで）の騰落率です。

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第82期～第86期		項目の概要
	(2019年7月13日～2019年12月3日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	20円	0.559%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は3,500円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	( 7)	(0.205)	
(販売会社)	(12)	(0.342)	
(受託会社)	( 0)	(0.012)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 ( 0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	20	0.560	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

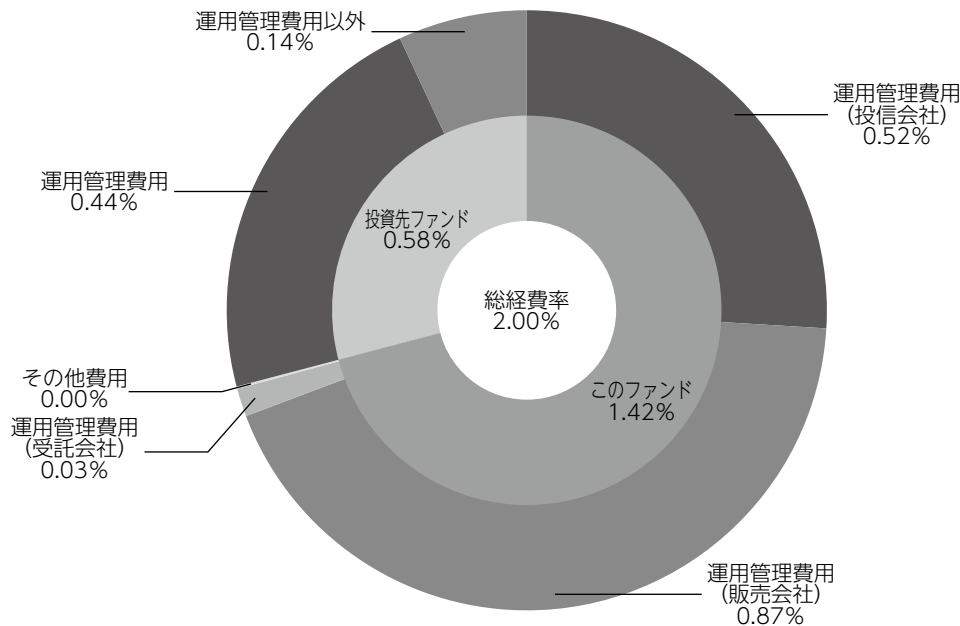
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

## (参考情報)

## ◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.00%です。



総経費率 (①+②+③)	2.00%
①このファンドの費用の比率	1.42%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.44%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.14%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

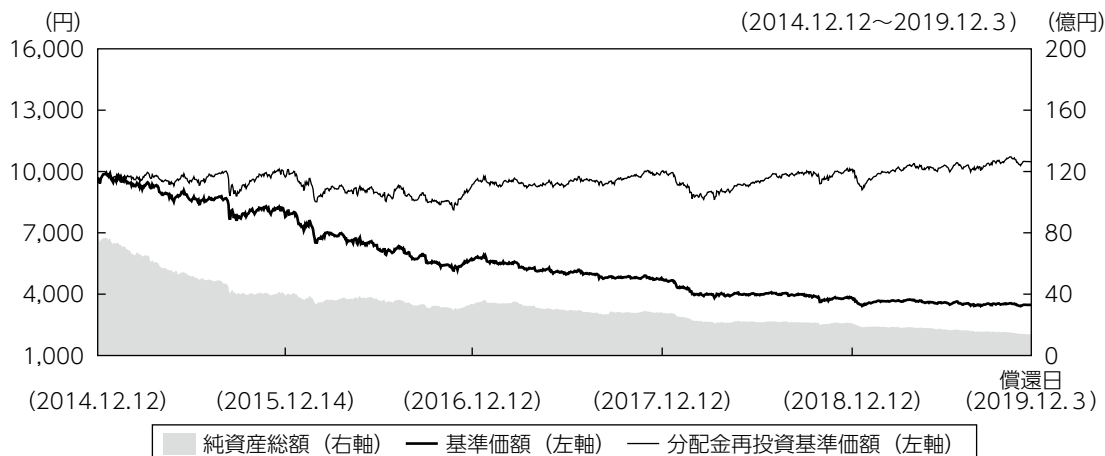
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2014年12月12日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年12月12日 期首	2015年12月14日 決算日	2016年12月12日 決算日	2017年12月12日 決算日	2018年12月12日 決算日	2019年12月3日 償還日
基準価額 (分配落) (円)	9,700	7,785	5,665	4,712	3,804	(償還価額) 3,477.79
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	1,920	1,740	1,290	890	450
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	0.2	△3.7	7.1	0.9	3.6
純資産総額 (百万円)	7,847	3,905	3,333	2,782	2,092	1,373

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

## 設定来の投資環境

設定から2018年後半にかけての米国リートは、F R B（米連邦準備理事会）による金融緩和縮小や政策金利の引き上げ等を背景に米国の長期金利が上昇し、弱含んだ局面があったものの、良好な米国の経済指標や株高を背景に上昇しました。その後は、長期金利の上昇が一服したこと、米国株が底堅く推移したこと等を背景に、米国リートも上昇基調で推移しました。

為替市場では、設定から2015年後半にかけてのドル／円相場は、日銀が大規模な金融緩和政策を行ったこと、米国が量的緩和の縮小を行い、日米の金利差が拡大したこと等を背景に円安ドル高が進行しました。その後は、英国の国民投票でE U（欧州連合）離脱が支持されたこと等を背景に円高ドル安が進行した局面もありましたが、2016年11月の大統領選挙の結果を受け、米国の財政支出拡大や減税観測が広がり、円安ドル高が進行しました。

国内短期金融市場においては、2013年に日銀の新総裁に黒田氏が就任以降積極的な金融緩和を行った結果、残存1年程度の国債利回りは低下傾向で推移し、2015年の後半からはマイナス利回りが定着しました。また、2016年1月にマイナス金利政策を導入したことから一時的に大きく低下する場面もありましたが、2019年の運用終了まで△0.3%台～+0.1%台のレンジで推移しました。

## 設定来のポートフォリオについて

### ●当ファンド

ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドの組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

### ●ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンド

米国リートの配当にオプション・プレミアムを加えた高水準のインカム収入を獲得するためのスワップ取引を実施しました。

リートの実質的な組入銘柄は1ヵ月毎に見直しを行い、米国リート市場の時価総額の上位を占める銘柄から、流動性や信用リスクなどを考慮した上で30銘柄を選定しました。各リート銘柄への投資比率は見直し時に等ウェイトとしました。

### ●D I A Mマネーマザーファンド

運用期間を通じて、残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

## 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

### 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第82期	第83期	第84期	第85期
	2019年7月13日 ～2019年8月13日	2019年8月14日 ～2019年9月12日	2019年9月13日 ～2019年10月15日	2019年10月16日 ～2019年11月12日
当期分配金（税引前）	45円	45円	45円	－円
対基準価額比率	1.29%	1.28%	1.26%	－%
当期の収益	45円	45円	45円	－円
当期の収益以外	－円	－円	－円	－円
翌期繰越分配対象額	715円	726円	736円	736円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

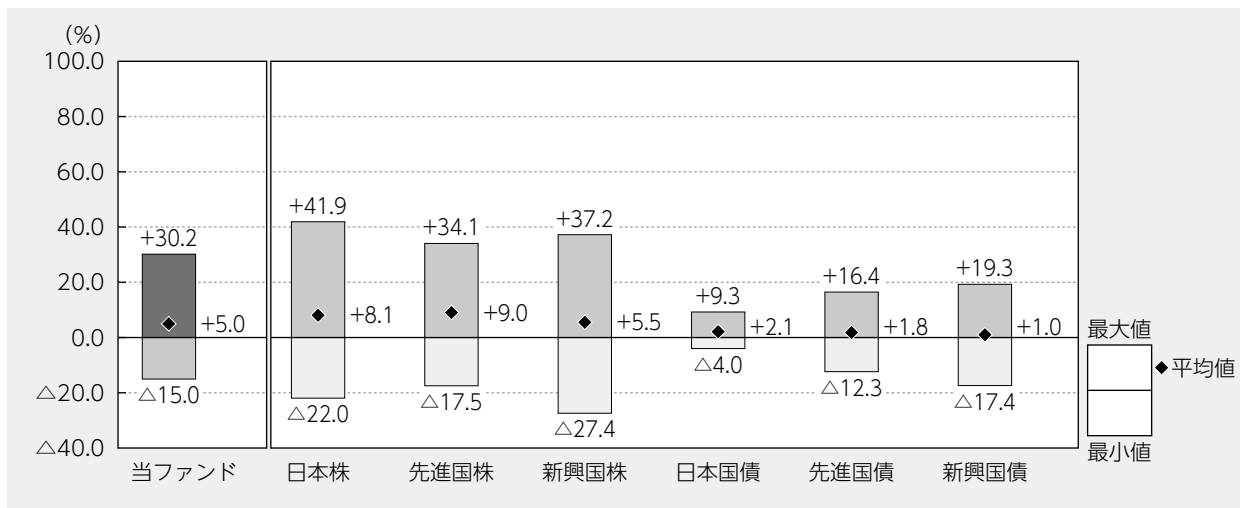
このたび償還を迎えるにあたりまして、当ファンドへのご愛顧に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／不動産投信
信託期間	2012年10月22日から2019年12月3日（当初2027年10月12日）までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンド」受益証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A M マネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として外国投資信託*への投資を通じて、米国のリートとオプション取引を実質的な取引対象とします。 *外国投資信託では、直接米国リートへの投資やオプション取引は行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国リートカバードコール戦略の損益を享受します。 外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちますが、外国投資信託の流動性およびこの投資信託の資金動向等を勘案の上決定します。 実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
分配方針	決算日（原則として毎月12日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年12月～2019年11月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

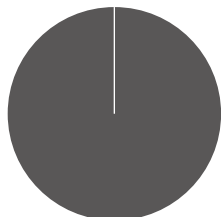
※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2019年12月3日現在）

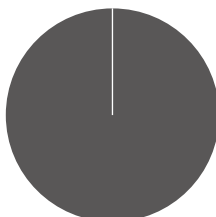
当ファンドに組入れておりました有価証券は作成中に全て売却し、また親投資信託受益証券は作成中に全て解約いたしました。

#### ◆資産別配分



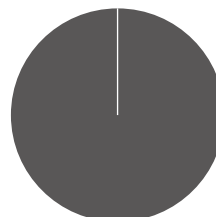
その他  
100.0%

#### ◆国別配分



その他  
100.0%

#### ◆通貨別配分



その他  
100.0%

(注1) 比率は償還時における純資産総額に対する割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

### 純資産等

項目	第82期末	第83期末	第84期末	第85期末	償還時
	2019年8月13日	2019年9月12日	2019年10月15日	2019年11月12日	2019年12月3日
純資産総額	1,586,410,934円	1,540,542,056円	1,507,630,812円	1,419,568,294円	1,373,392,405円
受益権総口数	4,611,159,649口	4,433,355,381口	4,291,048,322口	4,136,111,223口	3,949,041,900口
1万口当たり基準（償還）価額	3,440円	3,475円	3,513円	3,432円	3,477.79円

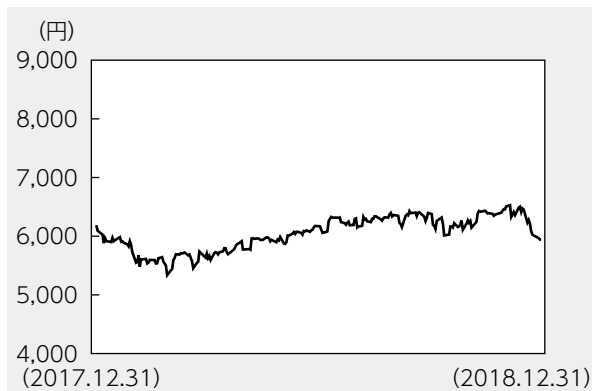
(注) 第82期～償還時における追加設定元本額は12,219,886円、同解約元本額は729,929,564円です。

## 組入ファンドの概要

※償還時における組入ファンドはありません。

[ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンド] (計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日)

### ◆基準価額の推移



### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US-REIT COVERED CALL INDEX TOTAL RETURN SWAP	日本・円	97.3%
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
組入銘柄数	1 銘柄	

※上記は、担保付スワップ取引の明細です。

ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドでは、直接米国リートへの投資やオプション取引は行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国リートカバードコール戦略の損益を享受します。

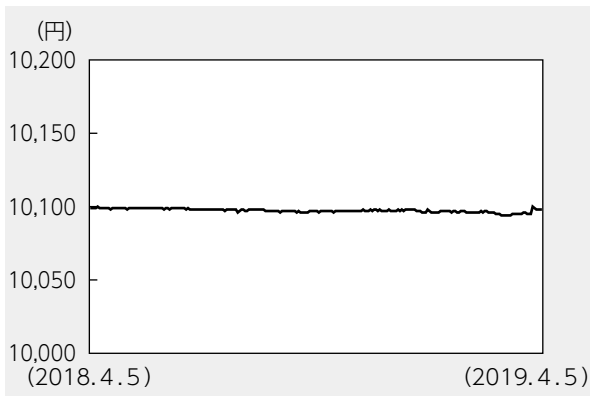
### ◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドの計算期間 (決算日が休日の場合は前営業日まで) のものです。また、分配金を再投資したものとしてアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄はダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドの決算日 (決算日が休日の場合は前営業日) 現在の状況を表示しております。
- (注3) 比率はダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。
- (注4) ダイヤモンド US リート カバードコール ストラテジー ファンドでは担保付スワップ取引のみ行っているため、資産別配分、国別配分、通貨別配分は掲載しておりません。
- (注5) 組入上位10銘柄は管理事務代行会社である米国みずほ銀行のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) に記載されています。

【DIAMマネーマザーファンド】（計算期間 2018年4月6日～2019年4月5日）

◆基準価額の推移



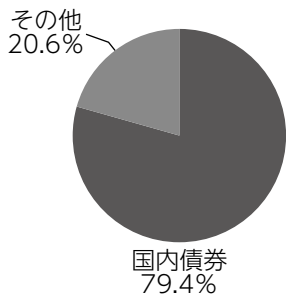
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
1 2 3回 利付国庫債券 (5年)	日本・円	74.4%
3 9 1回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	1.2
3 0 1回 利付国庫債券 (10年)	日本・円	1.2
3 9 2回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	0.6
3 8 8回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	0.6
2 1年度3 5回 兵庫県公募公債	日本・円	0.3
1 1 2回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.2
2 6年度4回 静岡県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度2回 千葉県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度 京都府京都みらい債	日本・円	0.1
組入銘柄数	22銘柄	

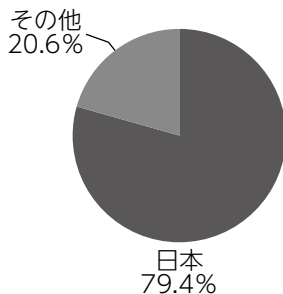
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

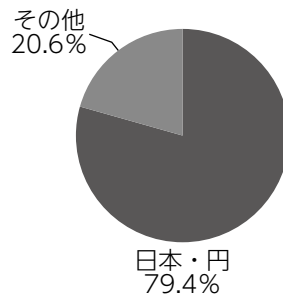
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,097円）で除して100を乗じたものです。なお、(a) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数です。その他は、信託事務の処理に要する諸費用等です。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

